

2023年度 看護学部卒業時アンケート実施報告

1. 目的

本学看護学部 4 年次生に対し、卒業にあたり本学の教育内容、教育等環境についての満足度等を調査した。

2. 調査主宰

看護学部自己点検評価部会（学部長、学科長、教務委員長、学生委員長）

3. 調査対象

看護学部 4 年次生 89 名

3. 調査方法

1) アンケート調査

学修支援システム manaba のアンケート機能を使用し調査を実施した。回答に要する時間は 10 分間程度。

2) 調査日時

実施日：2024 年 3 月 8 日（金）

卒業ガイダンスの時間に学生に依頼して、その場で回答を求めた。

データ収集期間：3 月 8 日（金）～3 月 15 日（金）

4. 調査内容

- 1) ディプロマ・ポリシーに関する習得状況
- 2) 学習姿勢
- 3) 実習状況および満足度
- 4) 国家試験支援への満足度
- 5) 学習環境、生活支援への満足度
- 6) COVID-19 感染対策の満足度
- 7) 図書館の利用について
- 8) 大学への要望等

5. 調査結果

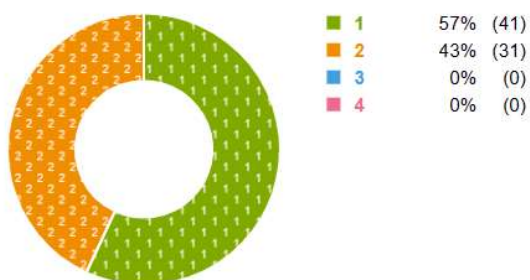
対象数 89 名、回答数 72、回収率 80%であった。

回答肢：1. とてもそう思う 2. そう思う 3. あまり思わない 4. 思わない

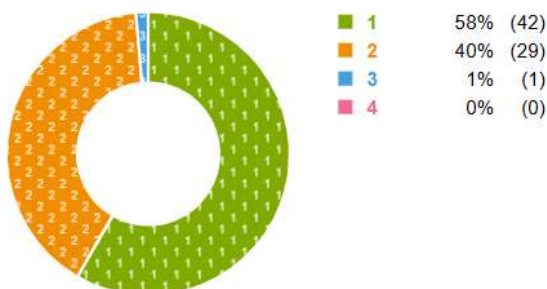
1. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）に関してどのくらい習得できたか

1)~6)については「とてもそう思う」「そう思う」という肯定的な回答が95-100%であった。「4) 国内外の地域特性と文化的多様性の理解」について4名の学生が「あまり思わない」と回答している。

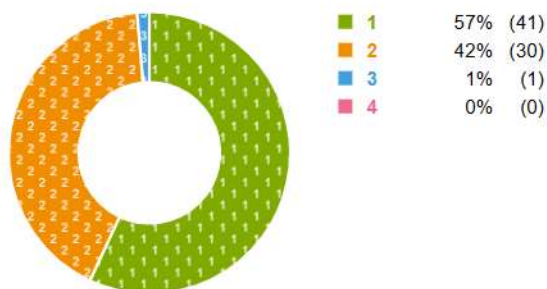
1)豊かな人間性と高い倫理観を養い、人々の生命を尊重し、尊厳と権利を擁護できる



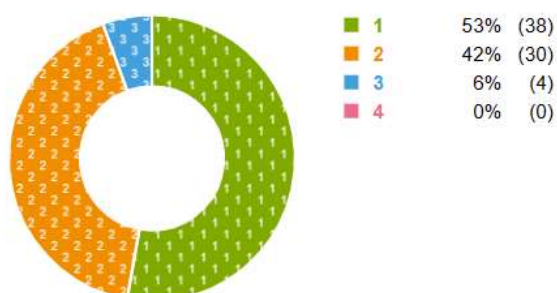
2)多様な価値観や生活背景をもつ人々を幅広く理解し、援助的対人関係を形成できる



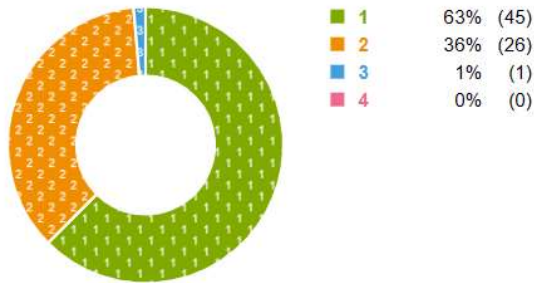
3)さまざまな健康状態にある対象者の医療・看護における課題を発見し、解決に取り組むことができる



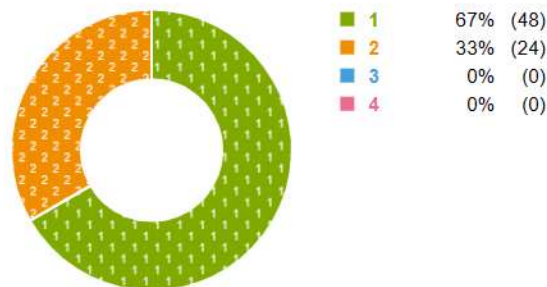
4)国内外の地域特性と文化的多様性を理解し、健康課題を捉えることができる



5)生涯を通して自己研鑽する自律的学修姿勢をもつことができる



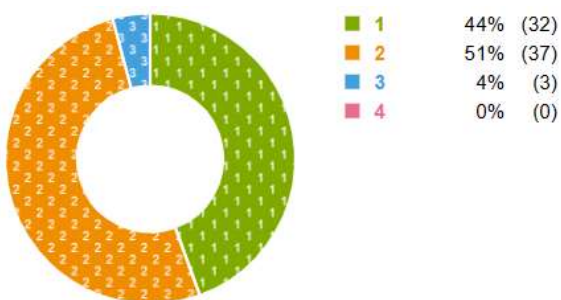
6)保健医療福祉チームの一員として、自己の役割を理解し、関わる人々と協働できる



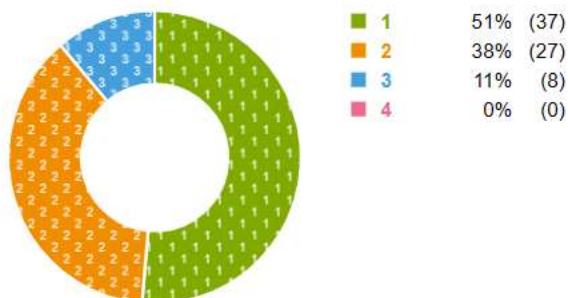
2-1. 教務関係（学修姿勢）

1)～4)については、肯定的な回答は、88-99%であった。特に「シラバスを活用して授業に臨んだ」という質問に「あまり思わない」と回答しているものが8名であった。

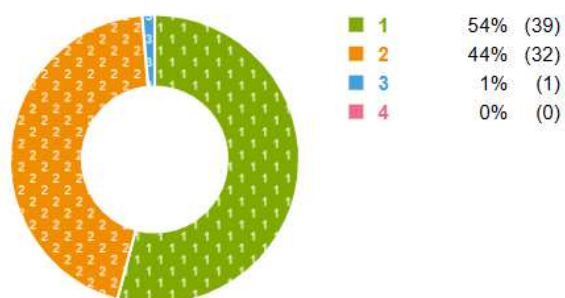
1)ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）を意識して学修した



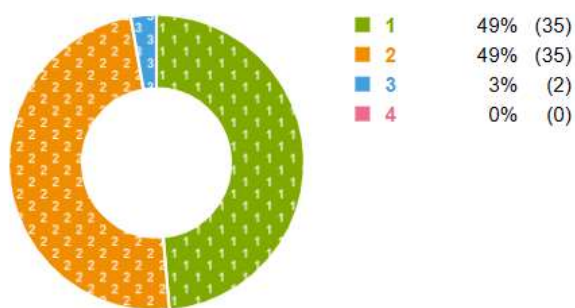
2)シラバスを活用して授業に臨んだ



3)1つの科目で学んだことを他の科目に関連付けて考えた



4)授業外学修（課題や予習・復習）に取り組んだ



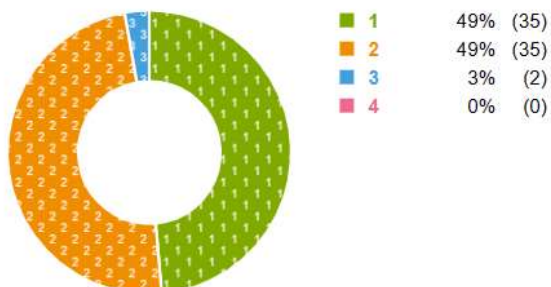
2-2. 教務関係（学修経験）

5)～7)については、肯定的な回答は、98・99%であった。

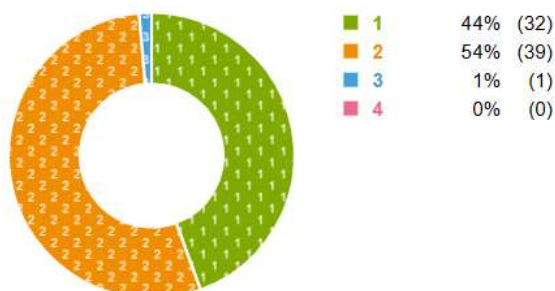
5)能動的学修（グループ討議など、教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、能動的な学修への参加を取り入れた授業）では、主体的に学べた



6)manaba の活用により学びの幅や深まりが促進された



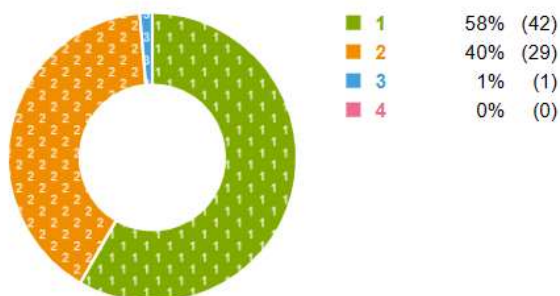
7)教員からのフィードバックは適切であった



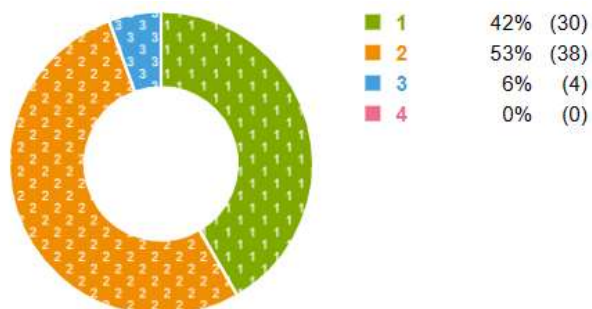
2-3. 教務関係（学修の満足度）

9)の「本学での学びは、入学時に期待していた通りだった」について、「あまり思わない」と回答しているものが4名であった。

8)授業を通じて知識・スキルが身につき成長できた



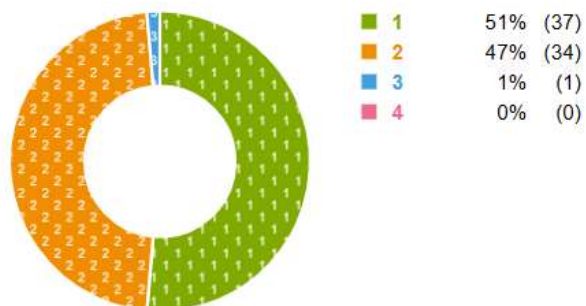
9)本学での学びは、入学時に期待していた通りだった



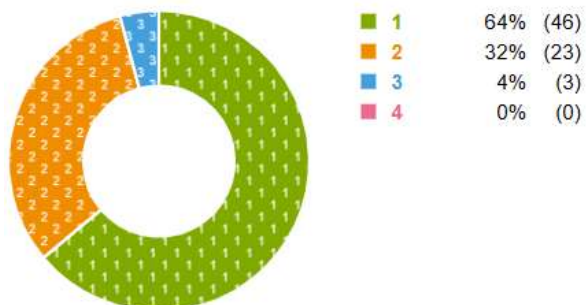
2-4. 教務関係（実習について）

10)~15)については、肯定的な回答は、96-98%であった。

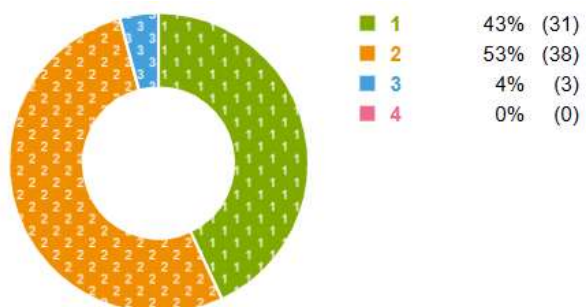
10)実習で教員から適切な指導やアドバイスを受けられた



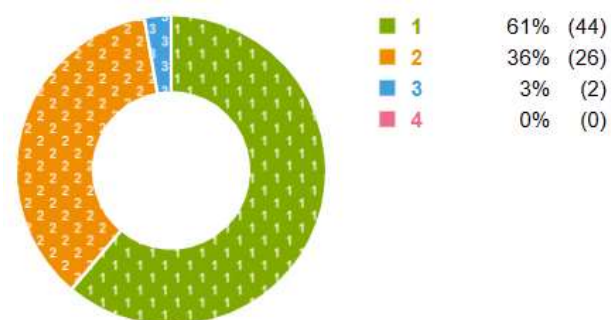
11)実習で実習指導者から適切な指導やアドバイスを受けられた



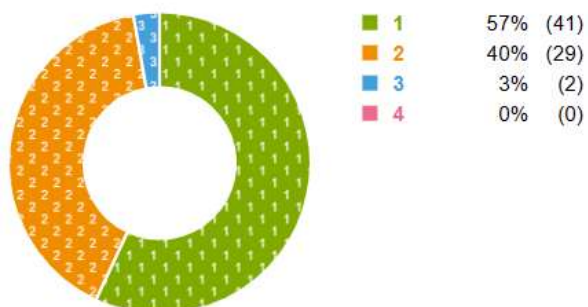
12)実習場所の環境は良好であった



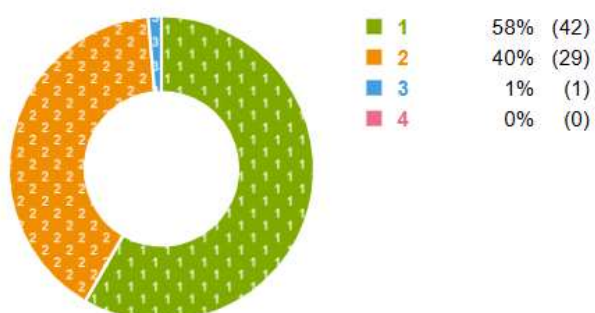
13)実習を通して臨地における看護職としての態度が身についた



14)実習を通して臨地における看護職としての基礎的な判断力が身についた



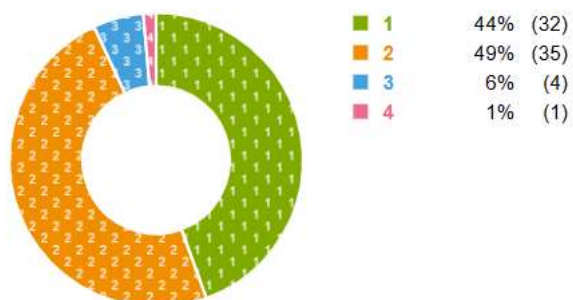
15)実習を通して臨地における看護職としての基礎的な実践力が身についた



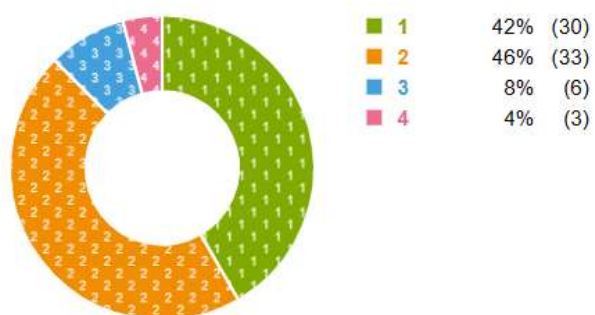
2-5. 教務関係（国家試験支援）

16)～21)については、肯定的な回答は、88-99%であった。

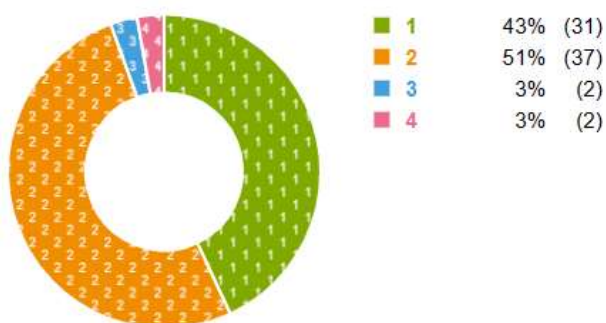
16)全国公開模擬試験の受験回数は適切であった



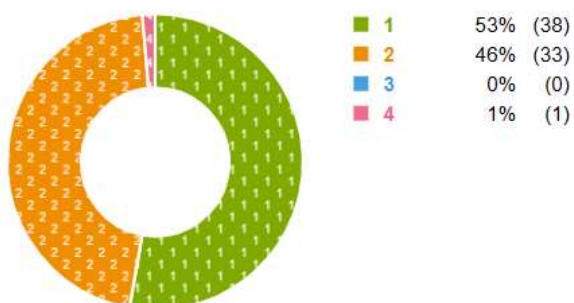
17)1年次から継続した国試対策の内容は適切であった



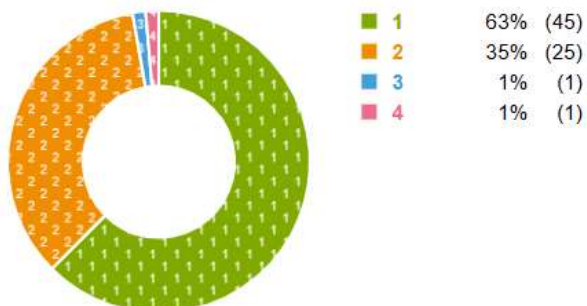
18)教員による国家試験に関する学習支援（相談、学習指導）は適切であった



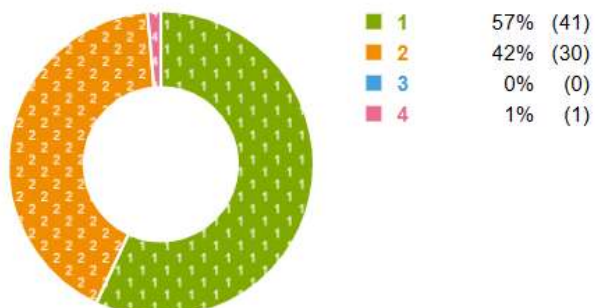
19)国家試験受験に関するオリエンテーションの内容は適切であった



20)国家試験受験時の交通手段（大学－ホテル、ホテル－試験会場）に関する支援は適切であった



21)国家試験受験時の宿泊に関する支援は適切であった



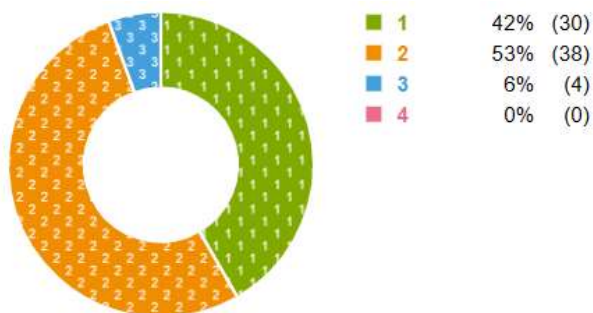
【学生の要望】

国試対策をもう少し全体でして欲しかった。出そうところのまとめや、予想問題等

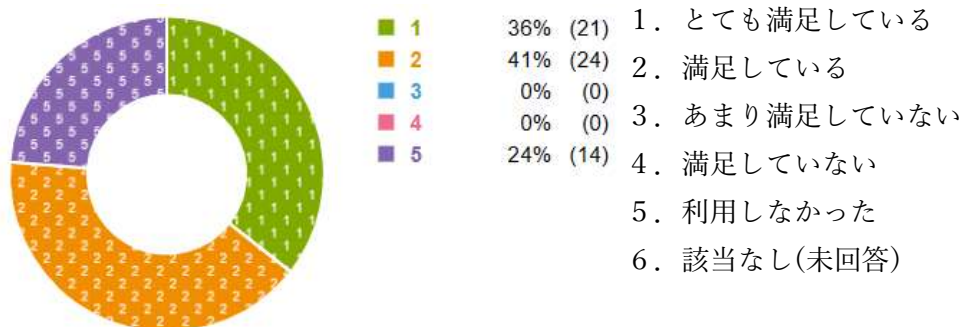
3. 学生生活（大学生活に関する満足度）

1)～13)については、肯定的な回答は、87-100%である。大学生活を送る上での環境面への否定的な回答が目立つ。しかし、総合的な満足度では、99%の学生が肯定的な回答をしている。

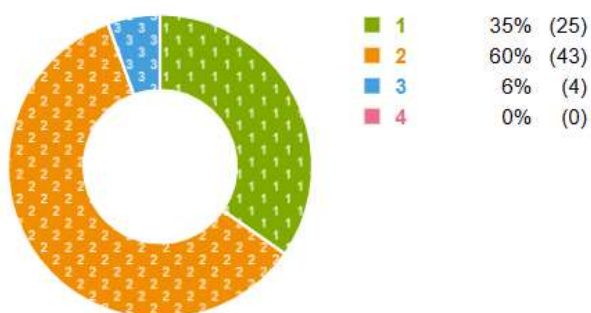
1)授業を受ける環境について



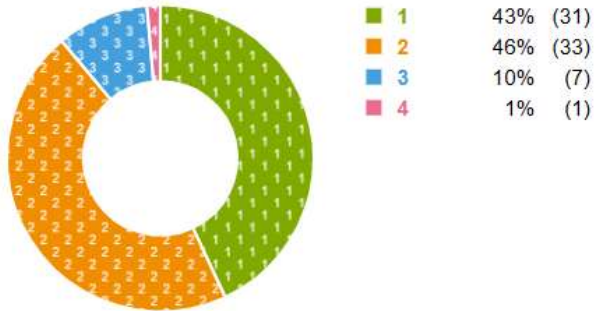
2)学習支援「学び場」について【該当者のみお答えください】



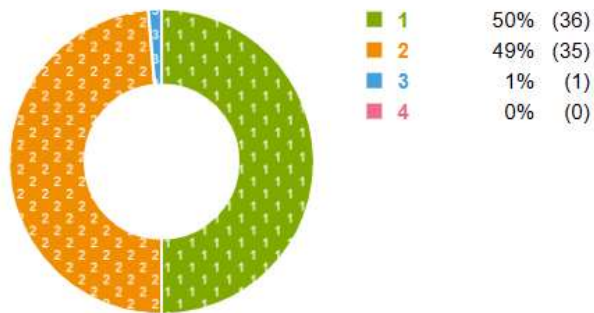
3)「キャリア開発支援プログラム」について



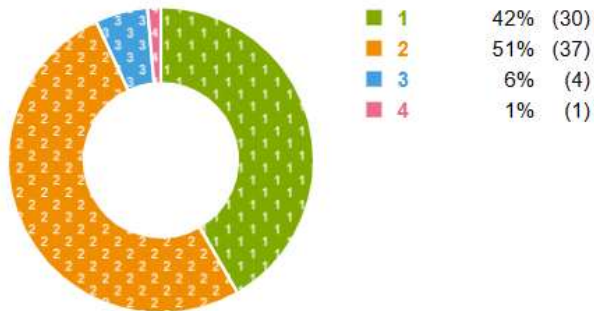
4)事務室の学生対応について



5)教員の学生対応（相談）について



6)グループチューター制度について



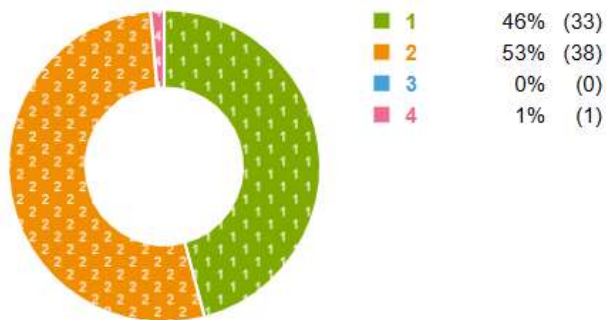
7)クラブ・サークルの活動参加について【該当者のみお答えください】



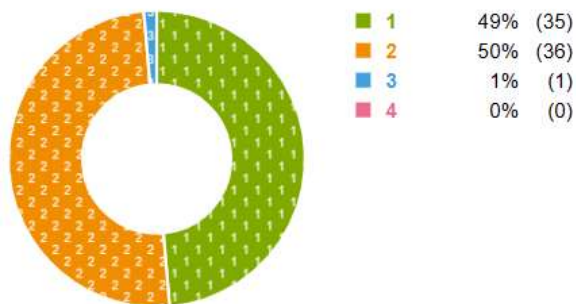
8)大学生活の中で交友関係を広げたり深めたりする機会について



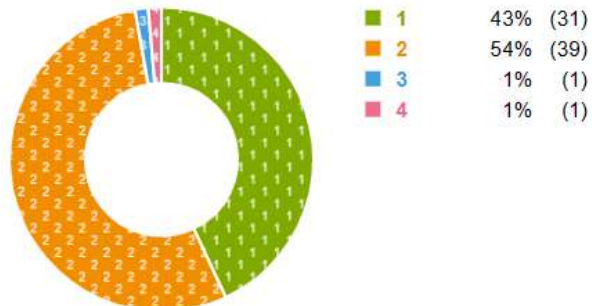
9)身体的健康の支援体制（保健室や健康診断など）について



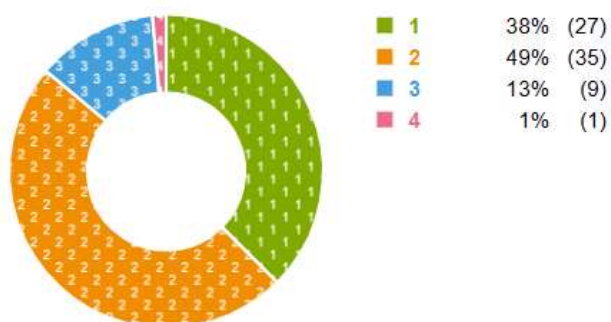
10)精神的健康の支援体制（困った時の相談先やカウンセリングなど）について



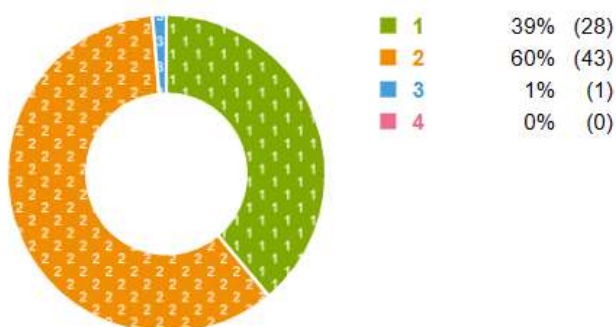
11)奨学金やアルバイト紹介などの経済、生活面の相談支援について



12)授業時間外に学内でのくつろげる場所について



13)総合的にみて、この大学での学生生活について

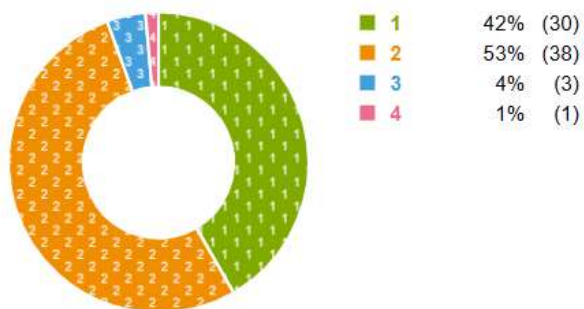


【学生の要望】ラーニングコモンズ的环境、駐車場の整備の改善を希望します。

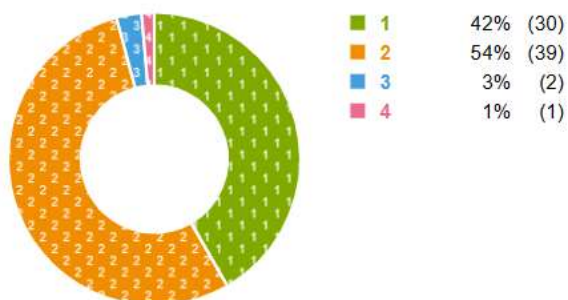
4. COVID-19 感染対策、そのほか (就職支援)

1)~4)については、肯定的な回答は95-99%である。

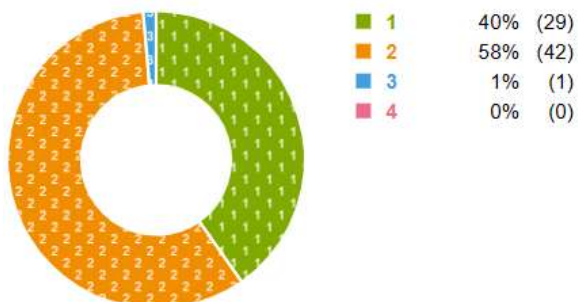
1)大学からの情報発信は適切であった



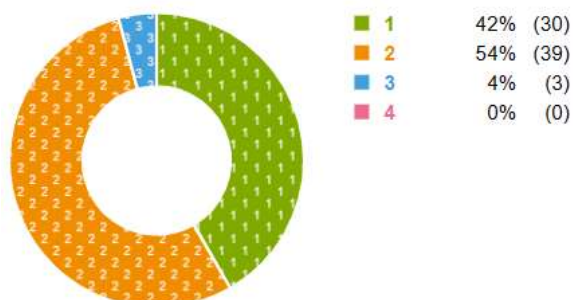
2)大学の感染拡大防止対策は適切であった



3)遠隔授業に関する学習環境への支援は適切であった



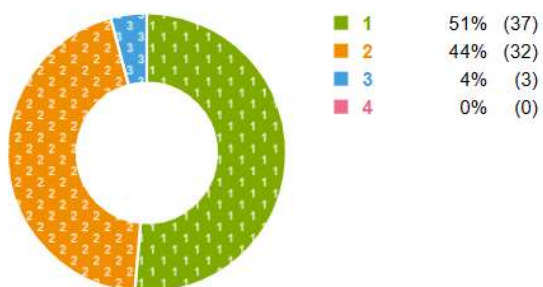
4)進学・就職に関する支援は適切であった



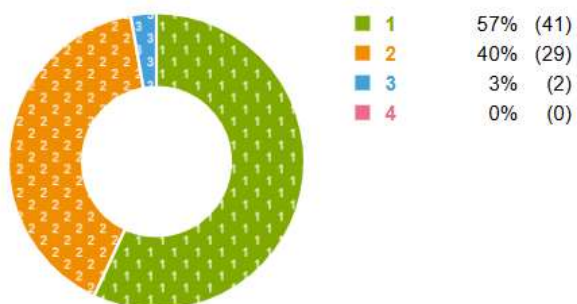
5. 図書館に関する事項

1)~3)については、肯定的な回答は96-97%であった。

1)図書館を活用して学修を進めることができた



2)図書館は学修を進める上で役に立った



3)本学の図書館の資料・設備・サービスについて概ね満足している

